第３３３回　令和８年１１月１９日（木）

「違うことは貴重なこと」

「人間には心というものはなく、感情のすべては脳のシナプスが反応しておきている」という学者さんの本を読みました。若干さみしいような感じもしますが、科学的には真理なのかもしれません。

どのシナプスが育つのかは人によって違いますし、経験や環境によってどれとどれが結びつくのかは様々です。人間が一人ひとり違うのは当然ですよね。

ＡＩはデータを集めれば集めるほど、一つの同じ結論に集約していきます。千差万別だった人間の考え方も、何万人、何億人と集めれば統計的に一つの答えに行きつくと思います。それが正解と呼ばれます。

人間は経験や環境で答えの出し方から、答えそのものまで違うことが多々あるのに対し、世界がネット環境でつながることでＡＩの同一性はさらに増していきます。
人間が子どものころからＡＩと対話して答えを求めていくことで、世界から個性が失われていくことになってしまうのではないでしょうか。

ＡＩの判断は常に正解が求められます。つきつめればどのＡＩを活用しても結論に変化はないということです。一方で様々な考えを持った人間は、答えの出ない問題に挑戦し、自分の考えをぶつけ合い議論することができます。

日本人はどちらかといえば同調圧力が強く、議論が下手な国民性があると言われています。相手の顔色を気にして、大勢の意見に流されてしまう傾向が多いようです。心理実験であきらかに誤っているとわかっていても、仕込まれた他のメンバーが間違った答えを言い続けると、ほとんどの人はそれに追従してしまうのだそうです。

Ａｉ時代に大切なのは、この少数意見や個性を無くさないことだと思います。ＡＩが常に正しい、自分以外の人がそういうなら自分の意見が間違っているのだろう、このような思考法が個性的なアイディアや意見を奪い去っていきます。

これからは独特な思考法やユニークな意見ほど貴重になります。ＡＩにはたどりつけない人間の武器になっていきます。

だからこそ若いうちは正解だけを求めるシナプス構造にならず、独特な考え方でたくさん間違ってほしいと思います。ミスをすることが成長の基本です。